

平成 20 年度氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成 20 年 12 月 17 日（水）
- 2 開催場所 氷見市ふれあいスポーツセンター会議室
- 3 会議時間 午後 3 時～午後 5 時
- 4 出席委員 上野隆子、伊藤宣良（川上修委員代理）、嶋尾正人、中筋國雄（高峯正岡委員代理）、茶谷正清、辻本勉、七尾雅周、瀨井信、姫野貞夫、前田利寛、前山良夫、森晨朗、森節子、屋敷夕貴、飯原打越（山岸教男委員代理）、浦野良一、澤井和一、日名田正之、大橋昇司、垣内哲男、小堀正夫、澤武勝弘、田中英雄、嵩尾憲昭
- 5 欠席委員 森本太郎、山岸正、佐藤泰樹、干場隆光、釜口清、藪田雅彦、釣賀節子
- 6 市出席者 堂故茂(市長)、中田清信(副市長)、前辻秋男(教育長)、永田徳一(企画広報室長)、尾崎俊英(総務部長)、丸山隆司(市民部長)、瀬戸三男(建設部長)、荒屋俊春(産業部長)、池田六義(教育次長)、干越正則(消防長)、高橋正明(企画広報室次長)、東海慎一(総務課長)、金谷正和(財務課長)、杉村邦明(病院事業管理室長)、定塚信敏(学校教育課長)、七分由紀雄(総務課主幹)、桶元勝範(財務課主幹)ほか
- 7 傍聴者 市議会議員 4 名
- 8 案 件 (1) 集中改革プランの進捗状況について
(2) 平成 21 年度予算の編成方針について
(3) 新病院建設計画について
(4) 小中学校将来計画について

< 協議資料 >

資料 1 集中改革プランに掲げる数値目標等の達成状況（平成 19 年度）

- 資料2 集中改革プランの見直しについて
- 資料3 平成21年度の予算編成方針について(要約)
- 資料4 新病院建設計画について
- 資料5 氷見市小中学校将来計画について(答申)

9 会議録

発言内容	
会長	<p>皆さん、こんにちは。時間となりましたので、ただいまから会議に入ります。委員各位には、年末何かと忙しいところご出席賜りまして誠にありがとうございます。この行政改革推進市民懇話会ですが、しばらくなかったわけですけれども、今度、平成21年度の予算前、そして19年度決算等がありまして、そういったことの外に、新しく市民病院、それから小中学校の統合問題、こういった問題がございますので、本日はそういった予定につきまして、市の方からご説明をいただくということが中心になろうかと思えます。だいたい1時間半ほどを予定をいたしておりますけれども、よろしく願いいたします。</p> <p>続いて、市長の方からごあいさつをお願いします。</p>
市長	<p>委員の皆様方には、師走の何かとご多用のところ、会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様方に大変ご心配をいただいております市民病院の公設民営化につきまして、ご支援いただいたおかげさまでこの4月から金沢医科大学氷見市民病院がスタートすることができました。いろいろまだまだ課題を背負ってのスタートでございますが、この改革によりまして他の自治体で発生したような医療崩壊を避けることができたと思っておりますし、また一般会計から病院への際限のない赤字補填問題に区切りをつけることができました。改めて御礼を申し上げる次第であります。</p> <p>まず昨年来、集中改革プランに基づき諸改革を進める中にありましても、まちづくり交付金などを活用した市街地歩道のバリアフリー化、無電柱化、それから潮風ギャラリーのオープン、氷見運動公園の整備、能越自動車道関連事業などを進めることができましたし、県との受水協定、水道の水ですね。引き下げていただいたことによりまして、わずかではありますが市民の皆様にご水道料金引き下げで還元することができました。それから国民健康保険税も引き下げさせていただいたりいたしました。</p> <p>それから南大町保育園や布勢・仏生寺統合保育園の民営化による保育サービスの確保など、市民福祉の充実にも努めてまいることができました。</p> <p>またコマツキャストックスの新工場の建設、オプティスの生産ラインの増設、そして北大町埋立地での農産物の加工交流体験施設の整備、それから国道160号沿線におけるビジネスホテルの建設など、民間資本による設備投資も活発に行われたのではないかと思います。</p>

それから新たな地域ブランドを創造するフォレストフローラルガーデンやワイン生産を目指すぶどう園などの事業などに対しましても、側面的に支援し、現在、整備が進んでおります。

このように厳しい状況のなかにあっても、多くの事業が進みました。そうすることができたのも、病院改革をはじめとする集中改革プランに基づいて改革に取り組んできた一つの成果であろうと考えております。

改革プランを策定、作成していただいた委員各位に改めて感謝申し上げたいと思います。

さて、新病院の建設であります。今度、骨格となる基本構想ができました。基本構想では、現行20診療科、病床数250床程度の病院の計画を出しております。外来部門では循環器及び消化器領域のセンター化などを掲げるとともに、入院部門では200床程度の一般病床に加えまして、集中治療室や回復期リハビリ病床を50床程度設置する計画となっております。

建設用地については、地権者や地区役員の方々々に大筋でご了承いただいたところであります。早期に手続きを終え、平成22年度のオープンを目指してまいりたいと考えております。

またこのほど、小中学校統合審議会から複式学級の解消と中学校における専門教育や部活動などの多様な集団活動を確保するため、これらに該当する小中学校を再編するという内容の答申をいただいたところであります。

市では、この答申に基づきまして、保護者や地域等へ説明会を開催するなどしてご理解とご支援をいただいたうえで対応してまいりたいと考えております。

財政の方を申し上げますと、平成16年から18年に渡りまして、いわゆる三位一体の構造改革が行われたわけでありまして、三位一体の改革というのは、そもそも地方分権を目指した改革でなければならなかったはずであります。いわゆるひもつきの補助金は返上して、できるだけ地方の工夫によってコスト削減して、投資効果を発揮するための財源として、国から地方への税源を移譲してほしいということであるわけです。ただし、甘えたことばかり言っていられないので、交付税についても、地方交付税についても見直すと、これが三位一体の改革であります。実際に、結局のところ、たいした財源も移譲されない。また、どうでもいいものが地方に移譲されたということでありまして、結局のところ、交付税だけが削減された三位一体の改革となってしまいました。大変残念と言うよりも、理不尽な改革だったんだと私は思っております。

そういった中で、この財政見通しと、この間の交付税の減額だけでも15億に及んでおります。新年度の見通しについても、こういった方向が避けられない状況です。ただ、今、麻生内閣の方で、できるだけ交付税も地方に回すというふうな議論がされておりますので、その推移を見守りたいと思っておりますが、今ほど説明しましたように、大変厳しい状況であることは変わりはありません。

また、それに加えて市として、病院建設、小中学校の改築、耐震化事業など大型事業が控えております。財政状況はこれまでにない厳しい状況を見込まざるを得ないと思っております。こうしたことから新年度予算編成にあたりましては、市の全事業のゼロベースからの見直しに取り組んでいるところであります。今後、市民の皆様のご理解を得ながら、引き続き行財政改革に取り組んでいく必要があると思っております。

今日の会議では、集中改革プランの進捗状況の報告と平成21年度予算編成の方針の説明をさせていただき、併せてせっかくの機会でございますので、新病院建設計画と小中学校将来計画の方針についてもご説明させていただきたいと思っております。委員の皆様方から、率直なご意見をお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございました。それでは会議に入る前に、委員の交替がございましたので、ご紹介申し上げます。氷見市金融協会会長の浦野良一さんでございます。それから、本日、欠席でございますが、氷見商工会議所青年部会長の山岸正さんでございます。

以上、二人の方が交替されましたので、よろしくお願いいたします。

それでは会議に入りますが、先ほども申し上げましたけれども、だいたい会議の時間は1時間30分ぐらいを予定しております。議事の進行につきまして、よろしくご協力をお願いいたします。

それでは、集中改革プランの進捗状況と平成21年度予算の編成方針、それから新病院建設計画と小中学校の将来計画について、この4つの案件を一括して事務局の方から説明をお願いいたします。

総務課長

(資料1、2の説明)

財務課長

(資料3の説明)

病院事業管理室長

(資料4の説明)

学校教育課長

(資料5の説明)

会長

どうもありがとうございました。それではこれから委員の皆様方のご意見をいろいろ伺いたいと思っておりますけれども、お約束のとおり、報道の皆様方にはここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまご説明いただきましたことにつきまして、委員の皆様方からご意見やご質問をお伺いしたいと思います。どなたからでも結構でございますが、ご発言をお願いいたします。

できるだけ皆様のご意見を伺いたいと思っておりますが、なかなかないのでございますので、順番をお願いいたします。

委員

どこをひっくり返してみてもみんな マークと言いますか、入ってくる、もらえるお金は少なくなってくる、出て行くものは出て行くということで、

赤字がだんだん膨らんでいって、まあ雪だるま式になっていくと大変なことになることは分かるんですが、やらなきゃならないことは決まっておりますし、努力された結果もこういった数字であがってくると、これ以上、私らが何を望んでいいか、どこらへんまでもうちょっと可能なのか。私らが分かる範囲で、生ごみの有料化によってどれほど生ごみが減り、実際に節約といえますか、予算的に減ったのかとか、というような明るい話題を具体的に提示していただくとぴんと来るんじゃないかなと。あとはあんまり金額が大きすぎて、何億という数字ばかり並べられてもぴんとこないもんですから。実際にやれるところには、ごみの有料化に対してでも、おそらく量もかなり減ったと思うんですね、袋を有料化することによって。市民の方々に協力してもらえればもっとこういうところが減らせるのになあというような具体的な、まあ税金を余計納めるのばかりじゃなしに、身近にできるような節約の仕方があるんじゃないかなというふうな捉え方をしていかに得ないじゃないかなという気持ちです。ずっと資料を眺めながら、説明をお聞きしながら思っている。実際に、ごみの有料化に伴って、これくらいごみが減りましたよ、だからもっとこういう形で市民の方々にも協力いただければある程度節税といえますか、予算的に減らせるんですよと、具体的に無理のない程度で呼びかけをしていけばちょっとずつで、予算的になんとかなりそうかなという明るい希望が持てるというふうに、そこらへんまたよろしく願います。

市民部長

ごみの減量につきましては、昨年、1年間大変ご協力いただきまして、家庭用の燃えるごみ、事業用の燃えるごみを両方併せまして、約15%ほどの年間で減少になっておりまして。心配されたのは今年度、去年、相当減ったもんですから、また戻ってくるかなというそういう心配もあったんですが、おかげさまで現時点においては順調に減量化が進んでいるかなというふうに考えております。

具体的にその効果については、今、ちょっと手元にその詳しい数字がないもので、申し訳ないですが。大事なことは、高岡地区広域圏で新しいごみの施設の建設をいたしておりますが、新施設の負担は高岡、氷見、小矢部の3市がそれぞれ人口規模に応じて負担をするという形になっておりますが、ただ人口規模の比率と同時にそれぞれのごみの量でも負担になるということでございますので、今後も市民の皆様により一層の減量化の願いをして、負担軽減に結びつけていきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

委員

私は老人会ということで、老人休養ホーム寿養荘ですが、大変高齢者、弱者が利用していることになりましたが、この寿養荘がどれくらいもつものか。その辺の数字的なものがあるのか、どうか、お聞きしたいと、このように思っております。

副市長

施設については老朽化しておりまして、特にお風呂、水まわりが一番心配

なところでございます。現在も、施設、水まわりについても部屋の外から回して使っている状態でございます、一番大事なボイラー施設もいつ傷んでもおかしくない状態で、丁寧なメンテナンスで今、カバーしているところでございます。そういうことをしながら、少しでも経費をかけないように、負担を減らすようにしているわけですが、抜本的に直すということになりますと市の負担も相当の重荷になってくる。また利用者もだいぶ特定の地域から入っているということもありますし、ひとつしっかり考えてみる必要があるかと思っています。議会でもそういう機会に寿養荘の見直しを氷見社協とやりたいと考えております。

委員

いろいろ説明いただきました財政、一般会計とか、そういった点におきまして非常に節約されて、確保するのに苦労されている点をお聞きすることができました。

小中学校の統廃合も生徒数が減ってくるので、これは致し方ないことかなとも思います。あるいはまた、氷見市民病院の開設につきましては、これは大変な、病床数が減ったとはいうものの、市民のニーズにあった医療をやっただけのように、大変うれしく思っております。

ただ、冒頭、市長がおっしゃられました、小泉三位一体改革ということにおいて、結局は交付税がカットされるだけであってがっかりしたという、こういうお言葉があったわけですが、小泉政権は結構、戦後、長く続いた政権の一つであって、小泉総理、個人的にも国民的人気があったわけですが、このことについて、もうちょっと市長のほうから補足いただけないでしょうか。

市長

地方分権を目指した三位一体改革、目指したものは、これは間違いでなかったと思うんです。これはもう成熟した社会が日本に到来してましたので、自分たちの身の回りのことは自分たちの責任で決める、こういう方向で一歩踏み出したのは間違いなかったわけですが、ところが中央省庁の壁が厚くて、結局なかなか権限を放さない。地方に渡さない。財源もなかなか渡さない。どうでもいい、はっきり言ってですよ、野球選手で言えば9番バッターからベンチにいる人、あるいは場外にいる人まで、いわゆる生活保護とか義務教育費をちょっと回すとか、そういう程度で終わってしまって、方向としては間違いなかったし、一歩踏み出しとしても間違いなかったけども、中途半端な改革で終わってしまった。結果として、国の改革よりも地方に改革を先行させた。しかも、交付税が減った原因としては、交付税のパイが決まっています、総枠を減らす。その中で合併したところに手厚くしたおかげで、総枠が決まっています合併しなかったところに薄くなった。それから、行革を今すぐやっているようなところに手厚く、氷見はかなり長い年月をかけて行革をしてきて、1200人ぐらいの職員がいたのが、今、500人台、400人台になろうとしている。行革を長い年月をかけてやってきたところでなく、瞬間的に合併したところに手厚くしたことで、県内では、うちとか、小矢部

市、滑川市、魚津市とか合併しないでいるところに相当厳しい状況が発生しているということです。これは氷見だけでなく、去年は交付税が、交付税は単なるもらうもんじゃなくて、国と地方の基本的人権のものの考え方でどこにいても一定の行政が展開できる基本的人権に関わる問題だと思うんですね。そういった中で、かなり理不尽に減らされている。昨年、富山県内の自治体、みんな予算割れをしました。こんなに交付税の見込みが、各財政担当者が見込み違いするなんてありえないくらいの、これは腹切りもんなんです。財政にとっては、それが県内各自治体みんな、かなり予算割れしたということからしても、国の方においては、地方に先に行革をさせた。今、盛んになんか地方の国の出先機関を行革云々言ってますけども、その前に地方にちゃんと回す。これが三位一体の、今、現在の進み方だと思います。

委員

分かりました。最近麻生さんは地方を大事にすると言ってきているわけですが、結果的に選挙などの結果、まあどうなりますか。これはまあ見ていかんらんとするわけがあります。

市長

やっぱり頑張ったところにはそれなりの評価を、段階的に見てもらうということが大事で、頑張っても頑張っても交付税を減らされる。もう立ち行かなくなるくらい交付税を減額される。これはもう頑張りようがないというくらい減らされているのが現状なんですね。あちこち国のいろんなところで率直に申し上げているんですが、こんな病院の公設民営化までしているのに、この点を見てくれない改革のあり方なんてのはおかしいじゃないかと、こういっております。

委員

集中改革プランのところなんですけども、長い間のそういったご苦労の成果が現れているなあと、先ほどからのお話を聞いて思いました。今の病院の改革もありまして、この辺が職員数の、2ページ目なんですけども、多く変化がありまして、介護保険の事業会計の方がその分、ちょっと増えたところがあるんですけども、その辺はそういったところの病院の方との関わりでこういった形になったのでしょうか。

総務部長

資料1の2ページのところですが、平成17年から20年の増減の内訳の方を説明しますと、まず、税務の方は1名増えるんですがこれは滞納整理班を作ったこと。民生の方は25名減。22名は保育士の減ということでありまして。それから特に農林水産の方で7名減になりますのは、ふるさと整備課を分散したために減になったと。商工の方は1名増やしております。教育の方が5名増えていますのは、病院からの調理士の受入れ等でございます。そして、下の方で病院が指定管理者となったために327名の減。今ありました介護保険の4名というのは、介護保険の包括支援センターを市の直営でやるということになったためであります。

委員

ありがとうございます。後は、予算編成ですか、資料3の方も、市の重点事業も本当に必要なものばかりで、なるべく本当に効果の高いものばかり予算を優先配分していただきたいなと思いました。今ほど12億から13億ほ

	<p>どの予算不足ということもお聞きしたんですけども、堂故市長さんには強く、上の方へ上げていただいて努力していただければいいのかなと思いました。</p> <p>また、学校の方ですが、湖南小学校と仏生寺小学校の統合と灘中と北中の統合、また宇波と女良の統合というところも、子どもたちの人数をお聞きしますと仕方ないところもあるかと思えますけども、積極的に進めていただいて、早急に進めていただければいいのかなと思いました。</p>
会長 委員	<p>あまり時間がないので、できるだけ手短かにお願いいたします。</p> <p>集中改革プランで平成20年度、21年度、今のところ見込みだと13億の不足ということですが、今のリセッション（景気後退）や国の緊急経済対策等もあって見直しされるんでしょうけれども、21年度予算任意事業30%及び基礎的事業10%削減という、これでどれくらい歳出削減されるのか、その辺のところを教えてください。</p>
総務部長	<p>資料3の方の予算編成方針のところですが、任意事業30%の削減、基礎的事業の10%の削減でございます。これは、任意事業30%で1億4,000万円の削減、基礎的事業10%の削減で5億1,000万円の削減、併せて6億5,000万円ぐらいの削減になります。これが今、実施できれば、13億の財源不足の半分ぐらいは何とかやっていけるのではないかと、6億5,000万円削減できれば今後も何とかやっていけるのではないかと、こういう設定をし、作業を進めているところでございます。</p>
委員	<p>今ほど説明を受け賜りましたけども、21年度の集中改革プランにおいてだいたい13億円の赤字ということになって、大変ご苦労されていると思うんですけども、まあここについては、市民の方へはこれで我慢してくれと、その代わり景気良くなったらこうなりますよというような楽しい希望のあるような計画を示していただければ、市民も納得すると思います。特に、市民病院も市長さんをはじめご尽力されまして、公設民営化が成功したわけですけども、この病院についても、今スタートに着いたわけですけどもまあこれ軌道に乗ったらこうなりますとPRするとともに、学校統合についても同じことです。市民の方には我慢してくれと、その代わり景気が良くなったら、こうなるんだというふうなことを市民に示して欲しいなと考えております。</p>
委員	<p>私、たまたま父親の方が市民病院の方に、新しくなったということで、大変期待をしまして、入院させております。老人医療、氷見市民病院の6割が老人ということで、新しくなった病院をぜひ父親に体感してもらいたいところで、まあ毎日のように行っているんですけども、まあ母親の時も一度入院させた時もあるんですけども、本当に良くなってきたなあ実感を感じておりますので、ありがとうございました。</p>
会長	<p>回答は、後でまとめて市の方からやってもらいますので、次、言ってください。</p>
委員	<p>学校統合問題につきまして、質問というよりもお願いをしたいんです。こ</p>

のプランにはちゃんと謳い込まれているので、一応、納得しているのですがいますけれども、いざ、統合するのに当たりまして、教職員も、それから児童、生徒の動揺のないように、しっかりと指導しながらやっていただきたいと。もちろん、校区の住民の皆さんの了解は第一だと思えますけれども。

やっぱり子どもたちの、特に編成されたカリキュラムの上でくぼみがあったり、まあ手抜きはないと思えますけども、そういう障害があったりすると大変だと思えますので、それに併せて、統合ということに必ず出てくることは、郷土愛、愛郷心の問題が出てきます。この小さな地域の愛郷心が出てきます。その愛郷心についても必ず、統合した時の子どもたちがそのことについて理解をし、また愛郷心の芽生えをもってやっていく指導計画を織り込んでおいていただきたいという、1人のお願いとして、お願いします。

委員

新しい病院が順調に予定されていることは安心しておりますが、それまでになかなか問題が結構あるのではないかとあって、医師会としてはなるべくうまく立ち行くように協力していきたいと思っております。

基本的な質問で申し訳ないですが、公債比率の%が、レッドゾーンがありますよね。いったい氷見はどれくらい近いんですか。そのレッドゾーンに。ちょっと後で教えていただきたいなと思えます。

委員

私、今日、代理で出していただいて初めて聞かせていただいて大変だなと。収益の方は国の政策なり、景気に左右される。そして支出のところ、私、民間ですから、人件費と公債返済が項目としては1番と2番だということで、非常に大変だなということを感じました。民営化だとか、選択と集中だとか、ゼロベースとか、統合だとか、やはりそれはそれで一つの最良の策なんだなと。ただ私、思ったのはやっぱり市はお金は大変なんだから、もう少しソフト面で何か市民に向けてとか、何か産業界に向けてとか、いろいろ選択の旗を立てて、振るということが今の市長だとか市の職員が、あの我々考えると組織のトップがある程度方向性を示して、その職員がそれに向かって旗を振るということが、大切な地域経済循環なのか、農商工連携なのか、200万人交流なのか、そこは少し議論の余地がありますけども、そういうことで職員も市民の皆さんにお金じゃなくて、いろんなものを投げかける旗を振る、そういう中で厳しい環境で氷見市民全体が適応できるんじゃないかなということを感じました。あのこれは返答は全く要らないです。

委員

今、初めに言われたことにだいたい通じていると思うんですけども、私、今、ボランティア代表として来ておりますので、これから市の大変な時代でやはりボランティアというものがかなり大事な時代になってくると思えますし、ボランティアをしたい側として欲しい側とのミスマッチがかなりありますので、その辺、ボランティアセンターでもいろいろと努力しながらうまくマッチするようにしているんですけども、やはりそういうことも常々、市民にこういうボランティアがありますということを広報などで一応、伝えていただいているんですけども、もっとボランティアが楽しいということを我々

ももっと伝えていきたいなと思います。

それから女として出ていますので、病院の件なんですけど、子どもを安心して産めるというか、民間の病院の方でやっていただいて、何かあれば市民病院の方というような感じだったかと思うんですけど、しっかり子どもを産んで育てられる環境というものを将来、いずれ見せていただけるような何かそういうようなものがあれば、今から結婚する人たちにもいいではないかと思っています。

委員

先の委員の話の続きになるかなと思うんですけども、21年度予算の最重要事業の(3)に少子化対策の推進という項目がございます。文字にするまさにこのような表現になるのかなと思うんですけども、どのような形で少子化対策を進めていくおつもりなのかなということを少しお聞かせいただきたいと思っています。

委員

ちょっと前までそちらの執行部の方に座っていた者が質問するのはなかなか難しいですが、今、社協の会長の代わりに来ておりますので、1つだけ申し上げたいと思います。

地域の、病院と福祉、保健とでネットを作って、今、いろんな事業に取り組んでおります。新しい病院のスタッフの皆さんもこの会にかなり協力していただいており、これからも進めていただきたいということと、ケアネット21、まあ21地区の推進の中で先般から研修会、それからリーダー研修と2つを立てながら進めております。これからは医療と福祉、かなり親密に連携して進めていただきたいということをお願いします。

委員

市民病院の公設民営化というのは大変素晴らしい成果であるというふうに思っております。ただ新病院の建設の概要のご説明をお聞きしまして、単純に病床数が減るといのはなんとなく単純に不安に思う点があります。まあ予算の関係とか、医師、看護婦の関係とか、いろいろご事情もあろうかと思いますが、一般市民としては単純に少し不安に思うところであります。

委員

実は昨日も事業所協会の役員会がありまして、コマツキャストックスの社長をはじめいろんな事業所の方が来られたわけですが、非常に厳しい経済環境の中で、おそらくコマツキャストックスの社長、非常に景気のいい企業ですけども10月頃から急降下してきたというような話もございまして、ここに集中改革プランの見通しについてという21年度の市税というところ見ますと、2億6,100万円の増収とありますが、ここら辺は根拠があると思いますけれども、そこら辺の説明をお願いしたいのと、それから事業所協会も市から補助をいただいとるわけですが、ここに書いてあるように30%カットとかいうことも甘んじなければならぬのかなと思っております。

委員

先ほどから市のいろんな説明がありましたけれども、統廃合も非常によろしいんですけども、廃合した廃合の方の土地をそのまま市の所有にしておくよりも、それを逆に売却して固定資産税を1円でもとった方がいい。安くて

も、処分をしないで持ったままだと何にもならん。いろんなところを見ていると、必ず残っている。これは植物園にしても何にしてもそうだ。早く処分した方がいい。処分する課を設け、住宅をあっせんの課を設けるよりも、土地を処分する課を。商工課で工場誘致もできないんだから。せめて処分する課を設けないとだめ。市役所の用地をなくするよう、全力を挙げてやってもらいたい。

委員

今ほどの説明の中で2点ほどありまして、まず資料3の最重点事業の方で、(5)地域を活性化する民間事業への支援というところなんですけど、この文字だけとりますといろいろなとり方があります。民間企業への支援なのか、地域、もっと小さい部落を活性化する事業への支援、そういうふうに私はとったんですけど。例えば、収入が少なくなる。支出は減らない。市の財政が圧迫されていくという暗い話ばかりでした。やっぱり暗い話ばかりというのも何かと思います。例えば、村で活性化するための事業をやりたいという、身体出してできることはするけどそこから先、金がないからできないというような事業を、市の方から補助をいただきたいが、いろいろ手続きがあってなかなかいただけないということで、例えば地域を活性化している事業を市の方から視察していただいて、これはいいことだなというふうに判断していただいたら、すぐ現物で、原材料の支給をしていただくとか、そういうような対策もお願いしたいと思います。

それと新病院の建設計画についてというところで、主な診療体制の3番の方ですね。この辺で循環器とか消化器関係の内容が書かれておりますけど、この中で脳外科とかそういうところの方はどうなっているのか、後ほどお聞かせいただきたいと思います。

委員

私のほうから市長さんをお願いしたいと思います。市長さん、非常にご苦労されておりますけれども、今ここに取り上げました集中改革プランの見直しについては、どれか一つだけでも大変な事業の整理になるわけですね。それが非常にたくさんある。これは先ほどから言っておりますように14億円の欠損額が見込めるという形のうえでやらざるを得ないということなんですけれども、これは大変なことだと思いますね。先ほどお話がありましたように、私、一番気なるのは地方交付税の問題ですね。地方交付税というのは、昭和の市が合併した時に、非常に素晴らしい制度だと言われてきたものなんです。これは地方固有の財源だと言われてきたわけです。これが最近、国が地方交付税の中に手をつっ込んで、その金をあっちに回すということがだいぶ出てきていると。これは、交付金は当然、地方がもらうんで、ただ、呆れるのは国が全部集めて、これは地方に渡すというやり方をしてきたわけなんですけども、地方固有の財源の中に政府が勝手に手を入れて、これを地方にああするとかで財源を回していると。市長さん、先ほどから言われておりますが、これは大変難しいと。

それと先ほど、合併の問題がありましたけれども、今度の合併で氷見が合

併しなかったということですが、昭和27年の合併で1郡1市になったのは全国で氷見だけなんです。あの当時は、全国どこ行っても、どうしてそういう合併ができたんだっていう意見が出たもんです。それが、あの時に二次の合併の時になぜ氷見が合併しなかったのかと言われるのは、どうも私は納得いかないわけですね。まあ簡単にはいかんと思いますけれども、やっぱり地方交付税を本来の形に戻すということが非常に大事な議論というふうに思います。

今、年間13億円の不足になってくると言われると、それは何とかしなければならぬわけですが、返ってくる交付税を国がどんどん減らしておいて、そしてその後始末について、市長がこういう苦しい仕事をしなきゃならぬというのはやっぱり、小役人どもで考えてほしいなと思います。大変、大変な仕事ですが、交付税を本来の形に戻すことをぜひお願いしたいと思います。

委員

東海北陸道が氷見まで延ばされて約半年ぐらいになるとは思います。現在のところ、私の聞く限りでは、海鮮館1人勝ちとは言いませんけれども、代表で氷見の元気を発揮してもらっていることだと思っております。この西高東低とかいろいろ言われて、氷見はいい方に見られておるわけですが、現在までの半年近くでどのように良くて、そして例えば海鮮館に例をひきますとやはりリピート客化と言いますか、固定客化するためには何か来ていらっしゃるお客さんから次のテーマと言いますか、仕掛けが浮かんでこないといっぺん来たからということになりそうというような感じがいたします。半年では何がつかめるといえることはないと思いますけれども、いかがでしょうか。何か、感じのうえでもよい、こう思っていたけどこうだったとか、この方向に力を入れてみたらどうかというそういう兆しと申しますか、なんかそういったものを今、把握されているものかどうか、そういうものについてどなたか。役所の方に何か。

委員

重ねた話になりますけれども、長年、重点事項で事業であがっている少子化対策ですが、氷見に限らず国そのものの重点施策でなきゃいかんのではないかと考えているわけです。現実、小学校の生徒数の縮小で統廃合していくと。生徒数の減少でございますが、ひとつ目に見える形で少子化対策、どうすれば人間が増えるかということとですね、歩留まり、せっかく本県に来てみんな県外に行ってしまうと。これはもったいない話でございます。いかに歩留まりをさせるかということを含めまして、ひとつご検討、あるいは現在進めておられる考え方を聞かせていただきたいと。

基本的な編成方針に限らず、行政のあり方などでございましょうけれども、各部局のそれぞれの握っている情報、これをその部局で握るんじゃなしに全職員が共有するような、今後ともそれを深めていただいて、やはり更なる、むだとは申しませんが、していただくようよろしくお願いいたします。

会長

それでは先ほどからいろいろご意見出ましたけれども、市の方からまとめてお答えをいただきたいと思います。

総務部長

私の関連の方、2点ほどございましたので、実質公債比率はどうかということですが、資料1の3ページにございます。氷見市は20.7%でございます。イエローゾーン、早期健全化基準は25%でございます。まあ氷見はそこまではいっていない。レッドゾーン、財政再生基準は35%です。イエローゾーンの早期健全化基準ですと起債等の制限があります。それから、レッドゾーンの財政再生基準を超えますといわゆる財政再建等をやらんなんということでございます。氷見は20.7%で、18%以上を超えますと起債を借りるのに国の許可が必要になります。で、国の許可を受けながら起債を借りているという状況でございます。この公債比率につきましては、県内で5位、10市の中で5位でございます。

市税が増収になっているということですが、集中改革プランの見直し、資料2のところですけども、市税の増減は確かに19年度は2億7,300万円、20年度は2億8,000万円、21年度は2億6,100万円と、これはあくまで前年度対比ではなくて、プランの見込みでございます。実質的には19年度は58億3,900万円、20年度は59億円、21年度は57億8,000万円とほぼ横ばいで若干下がっていていると。なぜ、プランよりも増えてきているかということですが、19年度のプランより2億7,300万円増えたのは税源移譲の本格実施があったこと。それから、定率減税の廃止によって税収が伸びたことで、実質的な税収は伸びておりません。17年度の決算をもとにして見込みを立てたものですから、若干、プランよりは増えてきたということでございます。ただ、実質的には増えておりません。

教育長

教育委員会の方から1、2点、ご説明いたします。先ほど委員さんからありました学校の統廃合ですが、改革を進めるになかなか難しい部分がつきまとうわけでありまして、学校の統廃合もこれに当たるかと思うわけです。こういう改革、統廃合を進めるには、当然、いろんな困難な道が出てくるわけですし、お話があったように、教職員、児童、生徒の動揺、これは当然、配慮していくべきものですから、当然、こういうことを中途半端にしますと学校教育がうまくいくわけもありません。それは私どもも十分注意して参りたいと思います。

それから、郷土愛のこともございました。これはもう審議会を進めている過程の中で、灘浦、あるいは上庄地区、十三地区なんかで個別に地区の意見を聞きに入ったわけでありまして、そこで一番話に出るのは、子どもたちの人数よりも郷土愛、地域性を重視しろ、こういう話が大変多くございまして、計画を進めるにあたっては、そういうことを十分配慮して進めるべきものとして私たちは考えておりますので、その点、よろしくお願ひしたいと思います。

それから委員さんからございました学校の校地ですが、以前は公共団体は地面は大切に保存していた傾向があると思いますが、最近はまだ資金繰りのこともあって、通常、売却して財源を見出すという傾向になってございます。これは十分、今ほどのご意見を参考にさせていただきたいと思っております。ただ、学校の校地は意外と借地が多いわけですし、あまりお金になるものが少ないのかなという思いもしておりますけども、まあそのあたりは十分、委員のあったご意見を参考して進めたいと思っております。

市民部長

病院の関係について、たくさんの方からご質問がありまして、まず、身内の高齢者の方が入院されたということで、今後、高齢者の方の入院が増えるという見込みにある中で、新病院対応は大丈夫かということでございますが、当然、高齢者になれば病気になる可能性が非常に高いわけでありまして、氷見市も高齢化率が上がってまいりまして、高齢者人口は今後20年間近く減らないということでございます。そういうことを想定した新病院を計画しているわけでありまして、250床の中で対応が十分できるんじゃないかなという内容です。と申しますのは、200床の一般病床、これは急性期でありまして、平均在院日数の大変厳しい縛りがありまして、在院日数を上回りますと診療報酬が減額になるということで、50床、回復リハビリ病床。回復リハというのは、リハビリ、入院していただいてリハビリで病気を回復していただき退院に結びつけるということで、このリハビリ病床というのは在院日数の縛りが大変緩やかでありまして、したがって高齢者の方が比較的長く入院ができる、そういった長所があります。

それから少子化対策、産科の対策というのは大丈夫か、子ども産んでいる環境という話がありました。ご覧のとおり産科医が全国で1万人を切った、9,000人を切ったとも言われていまして、これは非常に深刻な問題になっておりまして、各大学の方針としては地域の重点化という方向で拠点化になりつつあります。金沢医科大学さんの方では新病院の2年後のオープンに向けて再開ができるかどうか、そういったことを含めて、再開といった方向で検討したい、するとおっしゃってました。再開という方向で検討したいということでございます。

また、医療、福祉、介護のネットの環境でございますが、こういった会議でも医科大学の病院の先生方も参加してたらどうかということであったかと思っております。当然、そういった方向で医科大学さんにも働きかけていきたいと思っております。

それから、病床数が減少、368床の許可病床が250床の新病院の計画になっております。大幅な減になっておりますが、今の現病院が1年前の稼働病床数が300を割っておりました。290床ほどで稼働しておりました、許可は368床と非常に大きい規模であります。実際の稼働そのものは数年前から300を割っている。それでも対応できるということでありまして、それと250床ですが、先ほど申しましたように、急性期の患者さんと

療養の必要な患者さんを分離して対応できますので、大丈夫だという認識をしております。

また、診療対策の中で、心配は脳神経外科の体制はどうなるのかということとありますが、この議会で市長の答弁にもありましたように、金沢医科大学は年度内ですね、今年度中に脳神経外科の常勤体制を充実させるというふうにおしゃっているわけです。今現在は1名でございますが、具体的に何名かは明確にされませんでした。まあ確実に複数体制になるということで、併せて麻酔対応もできる先生も確保できるということになりますので、いわゆる脳血管の手術の方も対応できるかなというふうに考えております。

あと先ほどの質問で、ごみの減量化の具体的な効果額であります、約4,000万円の状況であります。

企画広報室
長

少子化対策ですが、委員さんからお話があったところでございます。氷見市の少子化対策につきましては、基本的に5年間ごとに行動計画を作っております、それに基づきまして実施しているところでございます。新年度につきましては、今、実際、案を作っている段階でございまして、具体的なことはこれからということになります。

先ほど少子化対策で、歩留まりというお話もございましたが、やはりせっかくここで生まれて教育とかそういったことにたくさんお金をかけ、東京に就職するといったことが結構ございます。大変もったいないお話でございます。そういったためには、氷見市に定住していただくということが一番大事なことかなと考えておまして、そのためにはなるべく働く場が必要であろうかと考えております。企業誘致は、氷見市は大変条件が悪くて、大変難しいんですが、先ほど市長からお話がありましたように、コマツ製作所の話であるとか、オブティスの話であるとか、成功事例もございまして、今後とも市長を先頭に一生懸命やっていきたいと思っております。

それからささやかでございますが、定住の話で、団塊の世代を対象にしまして都会からこちらの方に移住していただくということで、空家情報バンクというものをここ1、2年やっておまして、これまで17家族、50人ほどの移住実績もございます。ささやかな話ではありますが、そういったこともやっております。いずれにいたしましても、少子化対策というのは小さな自治体のやることは限度がございまして、国の方で抜本的と言いますか、総合的な対策がぜひとも望まれるところでございます。

委員の方から、地域の活性化というお話がございましたが、そういった地域のがんばる事業に対しましては、氷見市は以前からクリエイティブタウンという事業をやっておまして、いわゆる提案事業をやっております。昨年度、予算額で1,000万円ほどあるんですが、各地区のいろんな元気づくり事業を提案していただいて、審査は市がするんじゃなくて自治振興委員さんとか地区の代表の方々に審査していただいて、元気づくりに対して助成することも以前からもやっておまして、今後ともそういったことに力を入れ

ていくことが非常に大事なことかと考えております。

建設部長

同じく委員の地域活性化する民間事業の支援ということで、いい仕事には原材料をすぐ出せばと言っておられました。もちろん氷見市でも地域の皆さんが自分たちで道路なり、水路なりやるといふことに関しては、原材料や機械の借上げ料とか、そういうもので支援しております。また、私どもの知っている限り、ノウハウを出して協力したいと思っております。

それからもう一つは、民間のワイナリーとか、フローラルガーデン、それからキャストックスもあるんですが、そういう地域、民間の方がやりたいということであれば、支援ですね、道路の占用とか、それに伴う水道施設、下水道、またコマツキャストックスでは廃材が出ますけどもスラグですか、そういうものを使って、生コン作ってるんですが、それを市の原材料として一生懸命使っていますし、今後もそんな具合に進めたいと思っております。

産業部長

東海北陸道の開通の委員のご意見でございましたが

委員

4番、5番に重点で載っているものですから、氷見にとっては変化をみるどころかなと、そういうふうにも思っていますからお尋ねしたところです。

産業部長

分かりました。確かに開通から急激に観光客、バスその他が増えております。特に開通直後ぐらいにはだいたい海鮮館を中心に、多い時には2倍、3倍に増えているという状況も聞いておりますが、少しずつ落ち着いてきているのかなと思っております。

海鮮館の他にホテルとか宿泊客も結構、増えてございます。ただ、東海北陸で知名度のある旅館とかが増えていまして、特に氷見のような民宿というのはそんなに知名度はございませんでして、そこらへんを出向宣伝その他で宣伝していこうと内部で今日、話し合っております。それに先日12月中ごろですが、街の中の散策ということで観光客がバスで来て、街の中の散策を行っております。海鮮館に来られたお客さんを街中に誘導する仕組みづくりというものをいろいろ考えて、例えば、ゆったり街なか巡りなりをやったり、いろんな地産地消で食づくりのいろんな活動をやったり、それに誘導路の看板とかそういうことを検討したり、いろんなことをやっております。まだこれはこれから、いろいろ知恵を絞っていかねばならないと思っております。

委員

委員さんがおっしゃいましたけども、地方税の税源移譲で所得税を少なくして地方税を多くしたんですね。その結果、地方税の税収のある東京とか大阪とかは非常に有利になります。そうじゃなくて北海道とか青森とか不利になるということもあります。それについては石井さんとかいろんな方々が東京の方で話されて、そういう大きな都道府県から財源の弱いところへ回ってきたとかありましたけれども、今、同じ県の中でも氷見市とか富山市とかずいぶん差があると思うんですね。一つの県の中でも同じことが言えるんじゃないかなと。その辺も含めて、市長さんの方へも来ているんだろうと思えますけれども、具体的成果の出る形で、新しいものの考え方かどうか分かりま

せんが、成果が出るようなことを考えていくのも一つの方法かと思います。

それと非常に財源の厳しい中、皆さん一生懸命やっておられるのは分かりますが、やはりこういう苦しい時は、かえってピンチがチャンスという言葉がありますけれども、市の中でも新しい組織ワークづくりとかいろんな新しい話とか出てきますけれども、各地域でのいろんな活性化の話がある時に、市の職員も旗を振っていただくと言いますか、そういうことを踏まえながら役所の中のチームワークづくりのようなものを、今までも生かしていると思うんだけど、全く新しい視点の人間関係とか情報のコミュニケーションのあり方についても工夫されることによって、非常に大きな、全く違った経験が可能ではないかと思っておりますので、ご検討の方をよろしくお願ひしたいと思っております。

会長

最後、市長さんからごあいさついただきたいと思ひます。

大変、長時間にわたり、皆さん方のご意見を伺ってまいりました。政局の問題とかいろいろあるわけですがけれども、私も最近、自民党とか民主党とか一生懸命やっとなられるけど、私はむしろ、永田町と霞ヶ関とけんかせんなためでないかと。そういう制度をいろいろ直していただかないとなかなか、直らないんじゃないかと思ひて、各地方公共団体の首長さん方が非常にいろいろ頑張つて折衝しとられますけども、もっと国会議員に頑張つてもらわんならんかなと。民主党やら自民党やらけんかしたる場合じゃないと私は思ひております。

ただ、病院が非常に良くなったという話で、私もいろいろ気になるもんですから、いろんな方と、私はあんまり病院にいかんもんですからよく分からないんですけど、だいぶ良くなったという話をしますと、そんなもんレッテル張り替えてみても良くなるわけないなけえよという返事もかなり返ってくるんで、本当に病院の人が、それと併せて市の職員の給料を減じて病院に回しているという話も非常に市民の間ではいろいろ問題になっておりますけれども、そういったことがあるだけに余計に、市民病院の皆さん方にも一生懸命に市民のために良くなったと、市民の皆さんに奉仕するともういっぺん考え直してやっていただきたいなど。

それから過員配置で学校に行っている職員など、教育委員会にも言ったんですけど、市民は一生懸命、安全パトロール、学童のパトロールをやつとるわけですが、学校で用務員とか過員配置されとる職員がおるわけですが、そういう人が子どもが下校する時間ぐらい出てきて、街頭で子どもの安全を見守るといふ積極的な姿勢があれば、市民もまだあんまり文句も言わんがかなと思ひます。

いろいろこの間の議会あたり聞いてますと、財源がない、ないという話ですけども、なんか緊張感に欠けるような議会だったなと私自身が思ひております。そういった意味で市民をあげてやるということが大事なんだと思ひております。そういう意味で自治振興委員も進んで、自治振興委員の手当を

経費10%カットしようということで、何回も会合を重ねてこの間、結論を出して、最終的には理事の皆さんに諮って提案することになると思いますが、そういう結論をいただいたりしております。そういう意味でお互いにいろんな情報を交換しながら頑張っていたきたいなと思っております。

最後に、市長の方から皆さんのご意見を踏まえた締めあいさつをお願いしたいと思います。

市長

委員の皆さんには、熱心にご発言をいただきありがとうございます。ご報告させていただいたように、病院も改革をさせていただきました。また、借金もこの間に相当減らすことができました。また、職員の数も300数十名減らせた。しかし、ここしばらくが一番苦しくなるということです。というのは、ふれあいスポーツセンターや国営総合かんがい排水事業、ずいぶん前にやった事業の借金返しのピークがここ21年、22年、23年ぐらいに来るといふ、事業と借金の返済に時差があるということ。それから、直撃するものとしては、病院を公設民営化いたしまして職員に退職してもらいました、その退職債というのがすぐ返済が来るといふこと。それから先ほどから何回も話をしているように地方交付税がかなり減らされている中で、ここ数年がもっとも苦しい時期になります。この行革をしてプログラムを作ると同時に、今、市にはあらゆる目的を持った基金があります。教育文化振興基金だとか、社会福祉振興基金とか、そういうものを急場のしぎということで使わせていただく中で、この25年ないし26年までを乗り切らせていただきたいと思っています。そうすれば、何とか見通しを立てられる。それ以降は、収支が立てられるということをおお体、想定しております。はっきりと年次を今、プログラムをたてる前に申し上げられませんが、そういったこと目指しながら、新たなプログラムをたてて、持続可能な氷見市であるということをおお市民の皆様にもお分かりいただけるような状況を作らなければならないなということをおお思っております。しかし、なんといたっても、交付税が思っている以上に減らされるのは、これはプログラムの立てようがないわけでありまして、これはあらゆる場で、地方交付税というのは地方固有の財源であること、そしてこの間、ここ数十年の間にこんなになってきたということは、国が景気対策として地方に事業を起こさせて、その裏づけとして、裏負担として交付税を後で仕送りするよと言っていたものまで減らされているわけで、誠におかしな話で、交付税が減らされていると、あらゆる機会を通じて発言していきたいと思っております。また、絶対に、基本的にどこの地方にいたても最低限の行政が市民サービスとして行われなければならない。当たり前のことなんです、そのことを強く主張していきたいと思っております。

それから、委員さんがおっしゃっていただいたように、こういう苦しい時だからこそ、旗を高く掲げて大いに前進していきたいと思っております。ほんとに苦しいからこそ、全国でもまれにみるような病院の公設民営化ができたんだと思っております。市民の後押しがあつて。そのことに比べれば、今、東海北

陸道が開通したり、能越自動車道氷見インターに続いて、来年度早々には氷見北インターが開通することになります。氷見のポテンシャルを最大限に発揮できる状況があるわけですから、特に今議会でも食のまちづくり条例というのを制定していただきました。食を通じたまちづくりを高らかに掲げて、大いに前へ進んでいきたいと思っております。担い手は何と言っても、市民の皆さん、民活だと思えます。いろんな面が今、出つつありますので、来年度、花開くことがいっぱい出てきますので、市民の皆さんと大いに元気を出して前へ進んでいきたいと思っております。

市役所のことについても、叱咤激励をいただきました。私を含め、幹部職員、職員一同、一生懸命がんばっていきたく思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

会長

委員の皆様には長時間にわたり、熱心に発言いただき、時間、だいぶオーバーいたしました。皆さんのおかげで身のある会議だったと思っております。どうもありがとうございました。本日はこれをもって閉会いたします。
